

[月刊]キリスト教書評誌

一般財団法人キリスト教文書センター

1957年7月17日第三種郵便物認可

2018年5月1日発行(毎月一回発行)第725号

ISSN 0286-7001

本の ひろば

5 MAY
2018

出会い・本人

座右の書の著者たちへの感謝

西谷幸介

オスカー・クルマン 著/岸 千年、間垣洋助 訳/辻 学 解題
靈魂の不滅か死者の復活か 矢田洋子

横田幸子著

神と向き合って生きる 大嶋果織

ドイツ福音主義教会常議員会 著/芳賀 力 訳
義認と自由 藤掛順一

及川 信 著

神の国 左近 豊

近刊情報

書店案内

本・批評と紹介

浅野淳博 著

NTJ新約聖書注解

ガラテヤ書簡 笠原義久

ノエル・ストレットフィールド 著/中村妙子 訳

バレエ・シューズ 三辺律子

加藤常昭 著

自伝的伝道論 張 宇成

松田 央 著

信仰の基礎としての神学 中野敬一

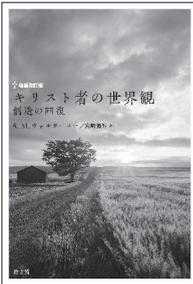
アレクサンドリアのクレメンス 著/秋山 学 訳

アレクサンドリアのクレメンス ストロマテイス(綴織)I

キリスト教教父著作集4—I 津田謙治



キリスト者の
宣教的使命



キリスト者の世界観 [増補改訂版] 創造の回復
A・M・ウォルターズ著 宮崎彌男訳
政治・科学・経済・教育・性など価値観が多様化するものごとを、キリスト者はどのように考え、生きればよいのか？ キリスト者の人生の指針を指し示す！
● 四六判・192頁・本体1,800円

新約聖書

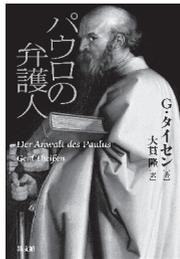
G・タイセン著 大貫隆訳

歴史・文学・宗教

● 本体2,000円

新約聖書執筆の背景と文書の収集に文学史的にアプローチし、その成立をトータルに理解する斬新かつ画期的な試み。

さらなる読書のために



G・タイセン著 大貫隆訳

パウロの弁護人

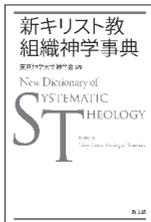
● 四六判・486頁・本体3,800円

青年法律家は獄中の使徒パウロを救えるのか？ キリスト教最大の伝道者の実像を原史料に基づいて再構築し、その卓越した神学と生涯を描き出した、新約聖書学の碩学による渾身の思想小説。

新キリスト教組織神学事典

東京神学大学神学会編

● 四六判・400頁・本体4,200円



長年にわたり読者の信頼を得てきた事典の新版。現代の視点から神学における最重要項目を選定し直し、全項目を新たに書き下ろした。執筆陣も完全に刷新。組織神学を学ぶ上で必要な、伝統的な教理の理解から今日的・現代的議論までをコンパクトにまとめた事典。

佐藤 優氏推薦！

優れた神学者たちのチームワークでできた優れた組織神学事典だ。エキュメニカルな視座からキリスト教の基本となる基本用語を、学術的に高い水準を維持しつつ、わかりやすい言葉で伝えている。時代の危機を克服するヒントがこの事典に満載されている。



教文館

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1 TEL03-3561-5549 (出版部)
本のご注文は(e-shop 教文館)へ! <http://shop-kyobunkwan.com/>

e-shop 教文館



出会い・本・人

座右の書の著者たちへの感謝——西谷幸介

雇用者であれば誰しも、給与に見合う、あるいはそれ以上の働きをしてくれる被雇用者を望むものだろう。同じ手当てで、想定以上に何倍もの働きをしてくれる人と、むしろ仕事を増やしてくれる人とは、雲泥の差である。例えば不適當・不穩当だが、本の中にもそういう「差」はあるのかもしれない。

手放せない本というのがある。この方面ではずっとこれにお世話になってきた、あの領域の場合は先ずあれに当たってから先に進むことにしよう——といった具合に、「座右の書」というものが、多くの方々にあるのではなからうか。辞書代わりにも用いうる知識の確かさや豊富さ、意味の取り違えを許さない明確な、いつ読んでも飽きさせない文章力、暗々裡に読者の思考法をさえ誘導しその使信（メッセージ）を納得させる論理的な議論、人間性豊かな感情の充溢を存分に味わわせてくれる名文——こうした魅力を湛えた本は、自然にその持ち主によって大切に保持され続けるのである。

そこには一種の信頼感が醸成され、安心感、依存感が生まれる。著者に対する敬意が湧いてくる。オーサーのオーソリテイへの尊敬の念である。イエスやソクラテスやシャカのような偉い人たちは本は書かなかった、周りの人がその先生のことを本にしてくれたと、いつも学生たちに伝えている。本を書くのなら、せめてしばらくでも座右の書にしてもらえる本を書きたいものである。

今、定年退職を迎え、研究室を引き払わざるをえない状況で、

最後の蔵書を整理している。自宅に所蔵できれば差別なく取り置いておくものをと、惜しい思いも抱きつつ、これはもういい、これもあきらめよう、と自分に言い聞かせながら、本を選っている。基準は上述の尊敬度、依存度である。

電子化の時代なのだから、そんなことで苦悩しなくてもいいのでは、という声も聞こえてきそうだが、そうは言っても活字の電子化もまだ完璧ではないだろうと、遠吠えの一つもしてみたくなる。

しかし、媒体が紙であろうと電子であろうと、真理を探究して止まない人間に文字は不可欠である。文字そのものも不朽である。ということ、本も不滅だということである。そして、人は本を読む。人は言葉によって生きるものだからである。

先だつてこのコラムに、落合建仁先生が、現代の日本の学生は嫌いだから読書しないのではなく、人生の目的意識がはつきりしないから読書嫌いなのだ、その証拠に、自分に「伝道者として歩むという目的意識が定まったとき、読書の意味も明らかにされ」、かつて読書嫌いであった自分が今や「寸暇を惜しんで読書をするようになった」と記しておられた。読書はそのように進んでいくものである。

たしかに読書自体はエネルギーを要し、苦痛も伴う。それでもなお、人は本を読む。先達の言葉を追う。それに媒介されながら、独自に真理発見の喜びに浴することができるところである。

(にしたに・こうすけ) 青山学院大学専門職大学院教授・宗教主任

説教者の座右に置かれるべき必読書
浅野淳博著

NTJ新約聖書注解
ガラテヤ書簡



笠原義久

一九七七年に著されたE・P・サンダースの『パウロとパレストイナのユダヤ教』は、従来のパウロ研究の「鑄型を壊す」真に新しい視点を示す画期的な著作と呼ばれました。今般上梓された浅野淳博氏（関西学院大学神学部教授）の手になる、NTJ新約聖書注解シリーズの第一弾『ガラテヤ書簡』は、従来の「パウロ書簡」注解（多少控え目に言って「ガラテヤ書簡」注解）が、パウロの思想・神学をそこへと規則的にはめ込んできた「鑄型を壊す」ほどの衝撃力をもって迫ってきます。

この衝撃力を生み出しているもの——それはパウロ理解をめぐり新約研究者の間で大きな争点となってきた二つの大問題について、浅野氏が本注解全体を一貫してぶれることなく極めて明確な立ち処に立っていることによるのでしょう。

第一の問題。それは、サンダースが提起したパウロ時代のユダヤ教という宗教の根本的性格についてです。サンダースは、ユダヤ教を冷たい、律法主義的に計算できる宗教として描く従来の理解を根底から覆し、神の選びに基づく契約がユダヤ人の宗教の自己理解にとって根本的であったことを明らかにしまし

た。サンダースはこのユダヤ教を「契約維持のための律法体制（カベナンタル・ノミズム）」と名付け、律法があるのは、神との契約関係に新たに入れられるためではなく、すでに神との恵みの契約関係にある者がその関係を維持するための道しるべである、と論じました。浅野氏もこの見解に与します。

そうなる、パウロが徹底排除したガラテヤ二・一六の「律法の行い」とは何を指すことになるのでしょうか。浅野氏は言います。「律法の行い」とは、ユダヤ民族性を根拠とした神の占有と他民族の排除が背景にある律法諸規定への固執を指し、とくにガラテヤ書では割礼と食物規定とに焦点が置かれている」と。これは、かつてJ・D・G・ダンが主張した「割礼と食物規定、安息日に代表される数少ない律法の業さえ行っていれば、神の恵みのうちに留まっていることが確認できる行い、つまり救いの共同体のメンバーが付けているバッジとして機能しているような行い」に近接した理解です。パウロの批判の矛先は、神の救いの民族（主義的）独占に向けられているのであって、「信仰」と対置される「行為」に向けられているのでな

いことは明らかでしょう。

第二の問題。それは、「ピステイス」というパウロ書簡の鍵となるギリシア語についての基本的概念規定と訳の卓抜した知見です。「人は律法の実行ではなく、ただイエス・キリストへの信仰によって義とされる」（二・一六〔新共同訳〕）。この「イエス・キリストへの信仰」は、原文では「イエス・キリストのピステイス」となっています。

本書では、本文の翻訳として、原文に忠実な「逐語訳」と、それを日本語としてスムーズにした「自然訳」の二通りが掲載されています。著者は「ピステイス」の基本概念は「関係性」を構築する際の主要素となる「信頼性」であるとし、信頼をよせるという能動的動作を含むと同時に、受動的に信頼に値する者の姿勢としての「誠実／忠実」をも含意している、つまり「双方向性」においてこの概念を捉えることが肝要である、と言います。したがって「キリストのピステイス」を必ずしも伝統的

な目的語属格の用法（「キリストへの信仰／信頼」と理解する必要のないことが明らかになります。浅野氏は、そこからガラテヤ書の中心使信へと突き進みます。

「神と人との正しい関係性（義）の構築に欠かせない信頼性が、いまキリストによってユダヤ人にも異邦人にも同じように提供された。換言すると、キリストがもたらした信頼性をとおして神の前では義という立場が付与される。この信頼性とは、キリストが神の救済計画に対して誠実であることを意味し、その誠実な業としての十字架を意味すると同時に、キリスト者がキリストとその業に信頼を置くことによって、神との関係性において誠実さを示すことが含まれている」。

説教者の座右に置かれる必読書となること間違いなし。
（かさほら・よしひさ 日本基督教団信濃町教会牧師）
（A5判上製・五三八頁・本体六〇〇円＋税・日本キリスト教団出版局）

信仰生活を歩み始める方に贈る入門書

55歳からのキリスト教入門
イエスと歩く道 小島誠志



50年以上の教会経験を持つ著者が、中高年の受洗者に向けて信仰の神髄と実践をやさしく語る。教会生活の長い方にもおすすすめ。
四六判・1200頁・1296円

エレミヤ書における
罪責・復讐・赦免 田島卓
「応報」「悔い改めと赦し」を考究、「宗教と倫理の調和」への答えを模索。A5判・328頁・3,672円

説教を知るキーワード
平野克己

季刊誌『説教黙想アレティア』好評連載を単行本化。36のキーワードから「説教とは何か」を明らかにする。四六判・160頁・1,620円

1冊でわかるキリスト教史
古代から現代まで

土井健司 監修
土井健司／久松英二／村上みか
声名定道／落合建仁

古代から現代に至るキリスト教2000年の歩みと、日本キリスト教史を1冊に収録したわかりやすい入門書。A5判・248頁・2,376円

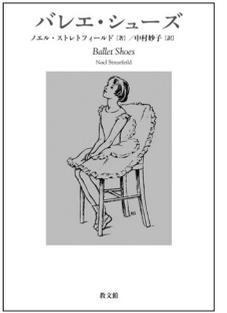
和解と交わりをめざして
宗教改革500年を記念して

2017年上智大学神学部夏期神学講習会講演集
片山はるひ／高山貞美 編著
宗教改革をカトリックとプロテスタントはいかに捉え、和解や交わりはどう実現されるのかを考察。四六判・192頁・1,944円

日本キリスト教団出版局
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457
E-mail eigyouto@bp.uccj.or.jp (価格8%税込)
http://bp-uccj.jp

華やかな舞台の世界と現実生活を描く児童小説
ノエル・ストレットワイールド著
中村妙子訳

バレエ・シユーズ



三辺律子

『バレエ・シユーズ』というタイトルや、バレエ学校に通う三姉妹という設定、また一九三六年という原作が書かれた時代から、クラシックな少女小説を思い浮かべられる方も多いだろう。実際、ナニー（乳母）やコックのいる暮らしや、オーディションに着ていくドレスの描写、少女ばかりが通う舞台芸術学院での生活風景など、本作は少女小説としての魅力をじゅうぶん備えている。

一方、この作品は児童向けの「職業小説」の先駆けとも言われている。確かに、少女たちが目指すバレリーナや女優も職業には違いない。けれど、華々しいイメージが先走り、一八九七年生まれの著者がどの程度「職業」として描いているのか、あまり期待せずに読むと、嬉しいしっぺ返しを食らうことになる。まず三姉妹の誓いの言葉がいい。姉妹といっても、ポーリー、ペトロヴァ、ポージーの三人はそれぞれ孤児になったところを、考古学者のガムに引き取られたため、血はつながっていない。ガムが三人と出会ったのは化石を探す旅先だったことからフォッシル（化石）という苗字をもらい、ガムの姪孫のシル

ヴィアに育てられている。肝心のガムは研究旅行にいったさりで、シルヴィアは次第に生活費にも困るようになり、家に下宿人を置くことにする。そんな家の窮状を知ったとき、三姉妹はこう誓うのだ。「われら三人のフォッシル姉妹は、歴史の教科書にフォッシルの名がのるように、努力することを誓う。フォッシルは、われら三人だけの名前であり、お父さんとか、お祖父さんのおかげでなんて、だれにも言わせないのである」。

この時代に、男親の力を借りず、（女性の名がほとんどなかった）歴史の教科書に名を載せることを誓う自立心を、彼女たちは持っているのだ。三人が舞台芸術学院へいくことになるのも、バレエや演劇に憧れたからではなく、あくまで生活費を稼ぐためだ。その証拠に、物語では、何度も事細かなお金の計算が記される。「ポーリーンの出演料は一週につき、二ポンド十シリングで、シルヴィアはそのうち、一ポンドを郵便貯金に入れ、五シリングを学院に支払い、自分は十五シリングしか、受け取りませんでした。それで十シリングが衣服費に回され……」といった具合。ちなみに、こうした計算は著者の別の作品

『ふたりのスケーター』などにも見られる。

職業のいちばんの定義は、「生計を維持するため」（大辞林より）なのだから当然だが、お金の話はしないことが暗黙の了解のようになっていた児童書において、生活にはお金がかかるという当たり前のことを、著者ははっきり書いてみせたのだ。

ほかにも、劇場との契約で出生証明書が求められる場面や、仕事を斡旋する学院に手数料が入る仕組み、子どもを労働させる際の法律など、著者は、子ども向けの物語には馴染まないように思われていた現実をしっかりと描いていく。もう一つ、特徴的なのは、仕事現場の描写だ。『夏の夜の夢』の舞台で妖精たちを空中浮遊させる「移動滑車」の細かな構造や、いわゆる「カチンコ」など映画撮影で使われる道具類が、丁寧に描写される。こうしたある意味マニアックな描写でリアリティを出し、読者の興味を誘う手法は、現代の「お仕事小説」に通じる。さらに、物語を地に足がついたものに行っているのは、次女ペ

トロヴァの存在だろう。女優の仕事の魅力に引きこまれていくポーリーンや、生まれながらのバレリーナであるポージーとちがいが、ペトロヴァは舞台に関心がない。家計のために洪々演技を続けているが、本当に興味を持っているのは、機械、特に飛行機なのだ。そんなペトロヴァの心を察し、なにかと手を差し伸べてくれるのが、下宿人のシン普森さんだ。こうして誰一人血のつながらない屋敷の人々は、「家族」を築いていく。おっとりとした語り口に、徹底的なリアリズムを宿した本作は、今、新訳で出るにふさわしい物語なのだ。

（さんべりつこ＝英米文学翻訳家）
（四六判・二〇六頁・本体一三〇〇円＋税・教文館）



新刊
死生学年報
2018

生と死の物語

東洋英和女学院大学
死生学研究所編
●A5判並製 本体2500円＋税

『魔女の宅急便』『風立ちぬ』から
オイディプス神話へ
古川のり子

●
西洋占星術に見る
人の生死と運命
比留間 亮平

●
社会活動における
宗教的価値の相反と克服
高瀬顕功

●
金光教の死生観
奥原幹雄

●
病氣治しと死霊の供養
渡辺和子

●
能に見る生者と死者との交流
J. ファーナー

●
知識人と一般人の
死後生観をつなぐ
宮嶋俊一

●
「いじめのせいで
自ら命を絶ってしまうことは
悲しすぎます」
酒井 徹

●
他、9篇

LITHON [リトン]

〒101-0061 千代田区神田三崎町2-9-5-402
TEL03-3238-7678 FAX03-3238-7638

自伝を通して伝道の核心に迫る書
加藤常昭著

自伝的伝道論



張宇成

伝道。イエス・キリストを信仰し、イエス・キリストが歩んだ道を歩もうとする私たちにとってこの言葉ほど尊く、重く、し掛かる言葉はないのではないか。キリスト者にとって、伝道というイエス・キリストの道を伝える働きは義務であり喜びであるはずだ。しかし私たちは伝道という言葉に耳にする時、本当に伝道という働きに向き合うことができているのかと自問せずにはいられない。そしてしばしばそこから目を背けてしまっているのではないだろうか。

果たして伝道とは何か。本当に自分にできることなのだろうか。イエス・キリストを信仰しながら罪にまみれた自分が偉そうにイエス・キリストの道を勧めることができのだろうか。恥をかくだけではないだろうか。私たちが伝道という言葉に向き合い、実践しようとした時、そのような恐怖を味わうことになるのではないだろうか。

伝道に対するそのような思いや葛藤を持ちながら、私はこの書に出会った。日頃から加藤牧師を敬愛し、説教集などで勉強させていただいている私は、「一体どのような言葉で伝道を自

伝的に語られるのか。もしかするとこの書には、自分には思いもつかない魔法のような伝道の方法が書かれているのではないか」。そのような期待を持ちながら本書を読み始めたのである。

本書は大まかに四つに分けられている。第一は著者の信仰との出会いである。ここでは著者が生きた子ども時代のキリスト教会の姿がリアルに生き生きと表現されている。第二には、伝道者を志し、様々な葛藤や失敗を経験しながら、ただ地道に神と向き合う姿が描かれている。第三には牧会者として歩み始め、与えられた働きの場所でのように牧会を行い、教会の信徒と、神と向き合ったのかという姿が描かれている。そして第四には、牧会生活全体を振り返る中での伝道論が語られている。

牧会の「達人」とも言える加藤牧師の言葉から、明日からも利用できるような、「伝道ノウハウ」を期待する読者にとっては、この本は期待はずれに感じられるかもしれない。本書にはどのようにしたら簡単にキリストを信じない人をイエス・キリストの道に導けるかという方法論などは一切語られていない。ここで語られているのは、ただひたむきに一人のキリスト者、

伝道者、牧師、神学者として徹底的に神と、そして教会と信徒とに向き合ってきた人生そのものが語られているのである。そして読者はその人生こそが伝道そのものであったことに気付かされるだろう。

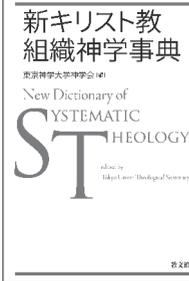
本書の中で著者は徹底的に伝道の核心へと迫る。伝道の核心とは福音の言葉であり、説教なのである。さらに信徒における伝道にも言及する。それは人々を礼拝に案内することだというのである。キリストを信じない者の心を変えることは容易ではない。しかし信徒一人ひとりが人々を礼拝に案内し、共に説教を聞くことならできるとは言える。説教を聞けば神がおられることがわかる。神が与えてくださる救いがわかる。説教はそのために妥協なく、神と真摯に向き合いながら行うのだ。

実に当たり前のことが語られている。しかし、伝道を行おうとしている私たちは、この当たり前のことにどれだけ心を傾けることができているのだろうか。私たちは自分の持てる人間的な力で他者を導こうとしているのではないだろうか。このよう

な言葉を投げかければ、このような手法で信じない者に接すれば教会へと導ける。そんな飛び道具のようなものは存在しない。本書で語られている伝道論とは一貫して、「伝道とはすべて神によって行われる」という著者のゆるぎない確信に基づいて編まれている。その基本的かつ当たり前のことを、私たちがどれだけ神と向き合いながら行っているかということが本書で問われているのである。

伝道を志し、実践する者にとって必読の書。怒涛の時代をただひたすらに敵しく、そして驚くほどに深く神と向き合ってきた加藤牧師の牧会者としての姿をぜひ味わってほしい。本書は伝道に生きた著者の姿を大河の流れのように深い味わいを持って描き、私たち読者に伝道とは何かというそれぞれの答えに導くだろう。

(チャン・ウソン) 日本基督教団霊南坂教会(伝道師)
(四六判・一七〇頁・本体一六〇〇円+税・キリスト新聞社)



東京神学大学神学会編

●四六判・400頁・本体4,200円

新キリスト教組織神学事典

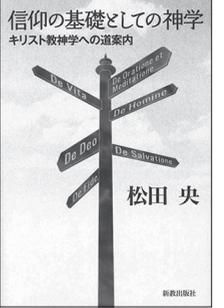
長年愛用されてきた事典の項目を見直し、すべて新たに書き下ろされた新版。スタンダードかつ最高水準の事典。

佐藤 優氏、平野克己氏、吉田 隆氏推薦!

〒1104-0061 東京都中央区銀座4-5-1
TEL 03-3561-5549
星/図書目録 ●価格に税別

祈りと黙想を重視する異色の神学入門
松田 央 著

信仰の基礎としての神学 キリスト教神学への道案内



中野敬一

キリスト教における神はどういう方であり、何が救いであり、そもそも何を信じているのかと問われたら、我々は正しく説明することができるだろうか。この場合の「正しく」とは、思い込みや漠然とした理解ではなく、聖書を規範としたキリスト教の教義に基づいて、という意味である。

言うまでもなく神学の学びは重要であり、書名が示すように信仰の基礎にそれを欠かすことはできない。しかし現実はどうか。著者は、「今日の教会では信徒は無論のこと、教会の牧師でさえも神学を無用のものと考える傾向」にあり、「神学研究の大半は、教会から分離したものになっていて、特定の専門家だけの関心の対象になっている」と批判する。従来の神学に対しても、「聖書および教会の伝統的な教えの解釈に重点が置かれていて、現代人の宗教的欲求を十分に満たす工夫がなされていない」とし、既存の神学思想を根本的に見直す「新しい神学」の必要性を説く。

本書はこの目的にそって、副題が示す通り「キリスト教神学への道案内」として著された。とくに信徒や求道者にふさわし

い神学教育を目的としている。

第一章は「人生について」。このテーマから入るのは、「いきなり神について考えるよりも、まず広く人間の生き方について検討する方が、キリスト教に入りやすいであろう」という著者の配慮があるからだ。哲学者セネカの幸福論を引用しながら、幸福な人生には「人生の最も卓越した先達」が必要であり、それがイエス・キリストであると導く。そして幸福に至る道は「キリストの道」、すなわち「イエス・キリストが自らこの世で歩み、また人々に示した信仰の道」であることを示す。仏教の人生論や荘子の思想も紹介され、キリスト教思想との違いなどを確認することもできる。

第二章以降は、教義学の伝統的な構成を維持しながら展開されていく。まず第二章は、「神について」。人間にとって神がいかなる存在であるのかと問いかけ、神の偉大さと人間の弱さという視点から神についての考察が始められる。第三章「人間について」では、神との関係における人間の在り方が論じられている。両章において「人間存在との対比で神を考え、神との対

比で人間存在を考える」という姿勢が貫かれている。

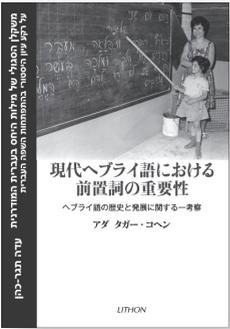
第四章は「信仰について」である。福音書における「悔い改め」という主題を解釈して信仰の本質に迫り、イエスの十字架や復活の神学的意義が述べられている。第五章は「救済について」である。特にキリスト教の死生観に関する考察は現代人の関心を惹くことだろう。

そして本書における大きな特徴となるのが、第六章「祈りと黙想について」である。「信徒や求道者が日常生活において神の働きを容易に経験できる方法論を提示している」という説明の背後には、従来の祈りの方法に対する問題提起が含まれている。しかし、こういった場合、「我流の黙想はいかにも怪しげで、自己陶酔的なものになりがち」となることを著者自身も自覚しており、その危険性を十分に考慮しながら「キリスト教的な黙想」を行うことが提言されている。ベトナム出身の禅僧テイク・ナット・ハンの術語である「マインドフルネス」という方法論を紹介し、聖霊を現実のエネルギーとして経験できるこ

とも述べられている。正直、私にはその効果・効能は未知数であるのだが、「祈り」についての意識変化が促される内容であり、「神との交わり」ということを意識しながら、ここで教えられていることを実践してみたいという気にさせられた。

全体を通じて、読者が関心をもつと思われるポイントや疑問を抱きやすい言葉に対して、良いタイミングで補足がなされている。日頃学生に向かって講義を続けてこられた著者であるからこそ成せるわざであろう。本文への集中力が低下しない程度に説明が抑えられているのも良い。また、15枚のカラーの挿絵（絵画やアイコン）や「床屋談義」とした複数のコラムからも、読者の関心は高められるに違いない。教会の読書会などのテキストにも勧められる。あとがきにも書かれているが、望まれるのは「教会公論」と「終末論」への言及である。続刊を期待したい。

（なかの・けいいち＝神戸女学院大学教授）
（四六判・一九〇頁・本体一七〇〇円＋税・新教出版社）



現代ヘブライ語 における 前置詞の重要性

ヘブライ語の歴史と
発展に関する一考察

アダ タガー・コヘン 著
同志社大学神学部神学研究科教授

●A5判並製 228頁
本体3,500円＋税

ヘブライ語を学び直す喜びが、この本には詰まっています。現代ヘブライ語の醍醐味は、ヘブライ語の歴史が現代によみがえったことを実感できる点にあるのではないのでしょうか。聖書の国からのまたとない贈り物を、心より感謝したい。(市川 裕)

ISBN978-4-86376-063-9

LITHON [リトン]

〒101-0061 千代田区神田三崎町2-9-5-402
FAX 03-3238-7638

異教徒の福音受容の準備として著された覚書
アレクサンドリアのクレメンス著
秋山 学訳

キリスト教教父著作集 4—I
アレクサンドリアのクレメンス
ストロマテイス（綴織） I



津田謙治

本書はアレクサンドリアのクレメンス（一五〇—二一五）の代表的著作『ストロマテイス』（原題「真なる哲学による覚知に基づいた覚書」）第一巻から第四巻まで（全体としては第八巻までであるが、最終巻は著述のための草案とも考えられている）の翻訳である。本書の執筆目的について、クレメンスは「実証を意図して記された書き物ではなく、わたしにとつての覚書として」（一一頁）書き溜めたとしているが、これは思い付きを羅列しただけの雑多な読み物ではない。彼が「本著作『ストロマテイス』は、哲学教説を混ぜた、否ちようど、胡桃のうち食べられる部分が殻に覆われているように、哲学教説に隠され覆われた真理を、包含することになる。というのも思うに、真理の種子は、信仰ある農夫だけに守られるのが相応しいからである」（一六頁）と述べているように、本書は哲学などのギリシアの知恵を手掛かりとして、キリスト教の真理を明らかにしようとする意図をもっている。それは『ストロマテイス』が「綴織」や「絨毯」を意味し、この主題から彼が様々な材料を織り合わせて議論を提示しようとしていることから窺える。

みならず、訳注が約三倍に増えており、また総説と解説を併せて五〇頁ほどが新たに書き加えられている。総説はクレメンスの生涯、本書の特徴やギリシア哲学やユダヤ教との関係、そして後代への影響などが論じられており、また解説では、写本伝承およびテキストの種類、各巻の内容などが説かれている。総説は関連分野に関心をもつ多くの読者にとっても非常に有益なものである。また、本書はその性格上、多くの古代の思想、文学、宗教、神話などの引用や比較が含まれており、翻訳は想像を絶するほど厄介で困難なものである。それにもかかわらず、本書だけでなく、現存するクレメンスの著作を網羅的に翻訳されている訳者に深く敬意を表したい。

なお、訳者の総説においてクレメンスは、「テルトゥリアヌスが『不合理なるがゆえにわれ信ず』と述べたのとは対照的に、哲学すなわち世俗の豊かさに関しては、これを積極的に受容すべきであるとする立場に立つ」（四五〇頁）とある。おそらく、

その中身を詳細に見ていくならば、第一巻では、キリスト教徒を敬神に導く有益なものとしての哲学や、モーセを中心にしてユダヤ教の意義とキリスト教との関係が論じられている。第二巻では、我々が神を知るために真理の道に向かうためには、信仰が不可欠であることが論じられている。ここでは同時に、クレメンスの神論が部分的に展開されており、神学史的にも重要な議論を含んでいる。第三巻では、第二巻の途中から展開される信仰と徳に関する議論の展開を引き継いで、信仰に満ちた生という観点から結婚について論じられている。グノーシスに対する反駁から、性的節制と独身制を極度に推し進める立場を批判し、新約聖書を読み解きながら結婚と誕生を弁証している。第四巻では、模範とすべきキリスト者の在り方を考察し、そのために前半に殉教、そして後半から節制と徳の完成が論じられている。

訳者は、すでに二〇一三年から『ストロマテイス』の翻訳を所属する大学の紀要にて第一巻から順次公刊していた。しかし、見比べてみるならば、本書では本文の表現が洗練されているの分かりやすく図式化するために訳者はこのような表現を用いたのであろうし、これは一般的な概説書にもよく見られる。しかし、テキストを詳細に見るならば、クレメンスが哲学者を含むギリシア人たちが「剽窃」者と見なし（一三九頁）、他方でテルトゥリアヌスが『魂』において自身がストア哲学に依拠することを表明するのを見ると、事態は単純ではないことに気づく。我々には、図式化されたものだけでなく、実際にテキストを手に取り、古代の神学者の言葉に触れた上で理解すべきものが多くある。本書は、そのような読者のためにも大いに裨益するものである。

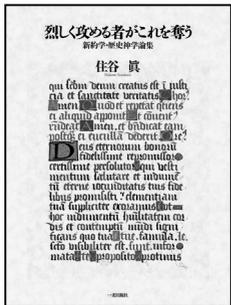
（つだ・けんじ 西南学院大学教授）
（A5判・四九四頁・本体八三〇円＋税・教文館）



烈しく攻める者が
これを奪う

新約学・歴史神学論集

住谷眞
Makoto Sumitani



神学と文献学の間を
往還しつつ、
crux interpretum
(解釈者の難所)
に取り組んできた
渾身の論文集。

A5判・上製・函入
定価【本体 5,400 + 税】 円
ISBN978-4-86325-063-5



株式会社 一麦出版社
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10
TEL (011) 578-5888
http://www.ichibaku.co.jp
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

死と死後の問題を明快に捉えた名著が復刊！

オズカー・クルマン著

岸 千年、間垣洋助訳、辻 学 解説

霊魂の不滅か死者の復活か

新約聖書の証言から



矢田洋子

聖書は死をどう捉えているか。死と死後の問題を明快に捉えた名著がついに復刊された。本書は、『キリストと時』（岩波書店、一九五四年）の新約学者オズカー・クルマンの六〇年程前の講演で、すぐに文書化され、日本語訳も五〇年程前に聖文舎より出版された、という書物である。本文を全部朗読しても二時間程度の小さな本。その中に、私たちの死と死後の問題に対する聖書の説明の中心的内容がしっかりと含まれていて、しかも平易な言葉で綴られている。そしてそれがそのまま、キリスト教の中心問題であるイエス・キリストの死と復活についての鮮やかな解説となっている。

クルマンは本文の冒頭で、多くのキリスト者が「死後の人間の運命に関する新約聖書の教え」を「霊魂の不滅」と考えていることを「キリスト教について最大の誤った理解の一つ」と嘆いている。その誤解が主の復活の恵みの大きさと確かさをしっかりと受け取る上で、大きな障害となっていると考えているようである。死と復活の信仰は、ギリシアの霊魂不滅の概念とは相容れないもの。クルマンはこの主張を、ひたすら新約聖書釈義

に基づいて展開しているのだが、それに対して多数の感情的拒否反応があったことが、「序」に記されている。「亡くなったあの人の霊魂と今も結びついている」ことを保証する「霊魂の不滅」思想の否定は受け入れられない、ということだろう。クルマンが見ているのは当時の西欧キリスト教国であるが、私たちの生きる日本では、それに加えて、「御先祖様がお空から守ってくれる」というような神道的祖霊信仰や仏教的輪廻の思想なども影響して、聖書の告げる福音を聞き分けることがより難しくなっているかもしれない。キリスト者でありながらも無意識に「霊魂不滅」信仰に立ってしまい、それゆえに「死者の復活」に基づく救いの恵みを受け取り損ねて、不安を募らせる原因になっているかもしれない。

クルマンは、ソクラテスの死とイエスの死との比較によって、死者の復活というキリスト教の信仰と霊魂不滅というギリシア的概念が相容れないものであることを明快に語る。ギリシア思想によれば、霊魂は本質的に不滅であり、からだは霊魂を閉じ込める牢獄であって、死は霊魂を本来の永遠へと解放する。だから、ソクラテスの死は「美しい死」「友としての死」であって、そこに死の恐怖はない。しかし、イエスは死を恐怖された。「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」。聖書によれば、「からだ」と「霊魂」は決して対立するものではなく、むしろ相互依存的存在であるとクルマンは言う。キリスト教的人間観は、ギリシア的「からだ」と「霊魂の二元論」では決してない。「内なる人（＝霊魂）」も「外なる人（＝からだ）」も神の創造されたいのち。死は「神によって創造されたいのち全体の破滅」、死ぬことは、いのちそのものである神に全く捨てられることを意味する。聖書の語る死は、第一にはまず「神の敵」なのである。しかしその「最後の敵」である死は、キリストの十字架の死と復活によって「すでに」征服されたのだ。「いまだ」完成の時を待ち望む中間の時にあるけれども。

クルマンは語る。「霊魂は本質的に不滅ではなくて、むしろイエス・キリストの復活を媒介として、またキリストを信じる

信仰を媒介としてのみ、そうなるということである。……死は本質的に友ではなくて、むしろその『とげ』、その力は、キリストの死において、死に対するイエスの勝利を媒介として（へのみ）取り去られるということである」。最後に、本書の復刊にあたって加えられた新約学者辻学氏の解題の最後の一文をそのまま引用して、お勧めの言葉としたい。「私たちが日常なんとなく前提している死後の魂の存在が、実際には聖書の語る復活観と相容れないのだと主張するクルマンの主張を、聖書本文と照らし合わせながら読むことで、自らの死生観を見つめ直す良い機会となれば嬉しく思う」。

（やだ・ようこ 日本基督教団吉野寺教会牧師）
（四六判・八八頁・本体二二〇円＋税・日本キリスト教団出版局）

旧約聖書の「ヨナ書」が
色鮮やかで躍動感あふ
れる絵本になりました！

魚にのまれた ヨナのおはなし



新刊
絵本

ピーター・スピアー [作]
小宮 由 [訳]

ヨナは神さまの命令から逃げ出した先で魚にのみこまれてしまい…。預言者ヨナの不思議で壮大な物語を、繊細なタッチで描いた聖書絵本。解説資料「ヨナの旅」付き。

A4判変型・40頁・1,620円

受難と復活の名説教15編



日本の説教者たちの言葉 わが神、わが神 受難と復活の説教

加藤 昭 編

左近 淑、竹森 満 佐一、植村 正久 など、日本を代表する説教者15人による受難と復活の説教を収録し、詳細な解説を付す。

四六判・260頁・2700円

日本キリスト教団出版局

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3204-0422 03-3204-0457
E-mail eigyoku@bp.uccj.or.jp 《価格8%税込》

http://bp-uccj.jp

自由な福音が躍動
横田幸子著

神と向き合って生きる



大嶋果織

本書は、二〇一六年に引退するまで五九年にわたって講壇に立ち、牧会にたずさわった横田幸子牧師の説教二三編をまとめたものである。一番古いもので二〇〇六年、半数以上が二〇一四年から一五年の説教なのだが、そのもとになったのは、著者の最終任地であった日本基督教団塩尻アイオナ教会の方々のテープ起こし原稿なのだという。「あとがき」によると、それらの原稿は友人たちにメールで配信され、それを読んだ女性たちがもつと多くの人に読んでもらいたいと考えるようになり、本書の刊行が実現したのである。出版のために彼女らは何度も集まって原稿の読み合わせをしたという。

この過程を聞くだけで、横田牧師の説教には人を動かす力があることがわかる。いったい何が女性たちを動かしたのか。わたしも動かされてみたい。そういう思いで、本書を手にとった。二三編の説教は、次のように五つに分類されて収録されている。「Ⅰ 聖書の神話」、「Ⅱ 信じる」、「Ⅲ 祈る」、「Ⅳ 愛する」、「Ⅴ 生きる」。

である。

つまり、古代と現代、学問と信仰、心と社会、日常生活と政治というふうには、さまざまな領域を縦横無尽に行き来して語られるのが、横田牧師の説教の特徴ということができようだろう。これは二三編すべての説教に共通してみられることである。

この縦横無尽の「自由さ」を「難解」ととるか「おもしろい」と受けとるかで、読者の「頭と心の柔らかさ」が問われる（筆者は、「ちよつと柔らかい」というところか）。そして、この自由さが、くだんの女性たちを惹きつけてやまないところなのではないだろうか。

著者の自由さはどこから来ているのだろうか。たぶんそれは、彼女の神理解に由来している。特にⅠに注目してみよう。ここに収録された三編の説教で、著者は創世記の創造神話や洪水物語を取り上げて、神の人間に対する気持ちの変化を追っている。それはおおよそ次のようだ。

——この世界を創造した時、神は人間を祝福した。人間存在を喜んだのだ。しかし、ほどなく失望する。悪いことばかりするからだ。もう、がまんできない。神は人間を滅ぼすことにし、洪水を起こして地上を一掃した。ノア一族と動物一つがいつつを残して。けれども、そこで神の心に変化が生じた。ノアが捧げた「宥めの香り」を嗅いで思い至ったのだ。「人が心に思うことは、幼いときから悪いのだ」。そして、決心した。「人に対して大地を呪うことは二度とすまい」。つまり、神は人間をそ

Ⅰは創世記をテキストにしているが、ⅡからⅤは詩篇やイザヤ書、ルカによる福音書やヨハネの手紙など、さまざまな聖書箇所が選ばれている。

読んでみると、意外に難解だ。……ん、そうかな？ いや、違う。難解というより、話がいろんな方向に展開していくので、ついていくのが大変なのだ。

例えば、最初の説教「人間創造のミステリー——向き合う関係」は、「原発問題についてのキリスト者の声明文」に言及するところから始まる。そして、創世記二章の「天地創造物語」を歴史的批判的研究の成果を用いて解説しながら、私たちが読み取るべきメッセージを明らかにする。それは、はじめに「命の祝福」「命の肯定」があったというものである。このことを語る際、著者は重要なキーワード（例えば、アダム、ルーアハ、地を耕す）の意味を確認することを忘れない。その後は、前任地での二重障がいをもった子どもたちとの出会いが語られ、さらに現代の国会や教団政治のあり方に話が展開し、最後は「互いに向き合う関係性」がもつ可能性を確認して締めくくられるの

のまま、丸ごと受容することにしたのだった——。

これはちょうど親の、子に対する態度の変化である。子どもが生まれた時、親はその誕生を喜ぶ。しかし、ほどなく失望する。思い通りにならないからだ。捨ててしまいたい。放り投げてしまいたい。しかし、ある時、ふと気付く。自分勝手ではないかと。こうして、親は子どもをありのまま受入れていこうと決心するのである。

しかし、無条件の受容は簡単なことではない。親がさまざまな試行錯誤の末に子どもを受入れていくように、神も葛藤を重ねながら人間を受け入れていく。それは最終的には神が自らを差し出す出来事、すなわち、イエス・キリストの出来事において成就するのだが、著者は、聖書の神は人間をけつして見捨てない方だということを確認して、本書を始めているのである。

では、神に全面受容された人間はどうなるのだろうか。親から全面受容された子どもが、のびのびと育つことができるように、神に受容された人間は、自由に、大胆に自分の人生を歩んでいけるようになる。

横田牧師の説教には、親、すなわち神に丸ごと受入れられた子ども、すなわち人間の自由さがある。彼女はその自由さをもつて、縦横に世界を駆けめぐる。ぜひこの説教集を読んで、その自由さを味わってもらいたい。

（おおしま・かおり）共愛学園前橋国際大学教員

（B6判・三〇〇頁・本体一七〇〇円＋税・新教出版社）

「教会からの挑戦」と「社会からの挑戦」

ドイツ福音主義教会常議員会著

芳賀力訳

義認と自由

宗教改革500年 2017



藤掛順一

本書の原書は、ドイツ福音主義教会（EKD）が二〇一七年一〇月三十一日の「宗教改革五百年祭」に備えて行った「ルター十か年計画」事業の一つとして二〇一四年に出版されたものであり、翌年に出された第四版からの邦訳である。五百年目の今日のドイツの社会において「宗教改革」を記念することの意義を、キリスト教会に対してのみでなく一般社会に向けて示すことが本書の目的である。「義認と自由」というタイトルにその意義が端的に語られている。

本書は先ず、「宗教改革の神学の核心」である「義認」が、「愛、承認と評価、赦し、自由」という、一二世紀を生きたる我々にとつての重要な問題と深く関わるものであることを指摘している。義認とは、弱さと罪を持つている人間に対する神の情熱を込めた「愛」であり、我々が切に求めていながら人間関係において得られない「承認と評価」を、また我々が真実に必要としている「赦し」を神が無条件で与えて下さることである。この「義認」によって我々は自分自身への囚われから解放され、隣人との交わりへと「自由」にされるのである。

要があることを語っているのである。

本書に対して、「ののの」によって宗教改革の核心を語ることは、カトリックに対する、また他宗教に対する排他的な姿勢だという批判が寄せられたことが「第四版への序文」に指摘されており、それに対して、本書はカトリック教会とルーテル教会世界連盟との『義認の教理に関する共同宣言』（一九九九年）を踏まえたものであり、さらに「御言葉においてのみ」には、「バルメン宣言」と「第二ヴァティカン公会議の諸見解」が活かされているのだという反論がなされている。「ののの」という定式は、今日そのもともとの神学論争的な性格を失い、むしろ神の言葉を宣べ伝えるためにキリスト教会に委ねられた共通の責任を浮き彫りにしている（一五頁）という指摘は重要である。

神によって与えられる「義認」のもたらす「自由」は、組織的強制に対する個人の良心の自由へと結実し、その自由を基本

「神による義認」は五つの steps（ののの）によって与えられる。「キリストのみ」「恵みからのみ」「御言葉においてのみ」「聖書に基づいてのみ」「信仰によってのみ」である。これらの「のみ」によって、「義認」は我々の人生の展望を根本的に新しくし、慰めに満ちた土台を与えるのである。本書の中心部分である第二章は、この五つの「のみ」が示している義認の真理を明らかにすると共に、現代の社会を生きたる人間にとつてそれがどのような「挑戦」となるのかを語っている。そのために、五つの「のみ」を扱うそれぞれの節の最後には「現代の挑戦」という項があり、それぞれの「のみ」をめぐる「教会からの挑戦」と「社会からの挑戦」が論じられている。ルターの宗教改革から百年ごとの区切りはかつてのドイツにおいては国民的な祝祭だったが、世俗化の進む今、「五百年祭」のインパクトは失われつつある。その現実を見つめつつ本書は、五つの「のみ」によって与えられる義認が、現代社会を生きている人々にとつても、教会からの意味ある「挑戦」であることを示し、同時に教会も、この社会の現実からの挑戦をしっかりと受け止めて歩む必

的価値として保証する民主主義の基盤となった。ルターの宗教改革から直ちに近代民主主義が生まれたわけではないが、「民主主義的な法治国家の近代的な憲法形態は、ルターの根本的な神学的確信に合致しているのである。人間の良心は内容いかにかわらず、他の人間によって制御されることもできなければ、制御されることも許されない。この洞察の中に、ルターの確信は生き続けている」（二二六頁）。この点において、宗教改革五百年を記念することは、今の日本社会に生きる者にとつても意味ある挑戦となる。宗教改革五百年を昨年のみのイベントに終わらせずに我々の血と肉としていくために、本書を熟読したい。

（ふじかけ・じゅんいち）日本基督教団横浜指路教会教師
（B6判・一六二頁・本体一四〇〇円＋税・教文館）



キリスト教書総目録 2018年版

明治150年 近代日本とキリスト教 巻頭エッセイ 鈴木 範久氏 小楢山 ルイ氏

総記 年鑑 辞書 年表 全集 著書集 叢書 講座 聖書 聖書学 神学 宗教学 思想 倫理 伝記 (ライオン) 信仰 入門書 人生論 説教集 文学 小説 評論 エッセイ 詩 劇 音楽 美術 建築 教育 保育 心理学 社会福祉 児童 絵本 讃美歌 式文 DVD CD カセット ビデオ キリスト教関連 雑誌 新聞 書名索引 著者索引 掲載出版社名簿

■ A5判 一般頒価1冊286円＋税 送料250円
■ お近くの書店様でお求めください。

キリスト教書総目録刊行会
事務局 〒162-8710 東京都新宿区
東五軒町6-24 トーハンビル内
TEL.03-3266-9521

天にある喜びを響かせる福音
及川 信著

神の国
説教



左近 豊

二〇一四年十一月末に脳梗塞によって死線をさまようほどの重篤な状態に陥り、以後一年余りに及ぶ入院とリハビリを経て二〇一五年九月に説教壇に戻られた及川牧師によって、ルカ福音書から語り出された「神の国」のテーマで貫かれた説教集である。それは二〇一一年六月十二日から二〇一七年二月まで二十回にわたる、ルカが証しするイエス・キリストの神の国の福音の説き明かしであるが、むしろ、キリストの福音そのものが、説教者の語りを、一旦は中断を余儀なくされながらも、一筋につなぎ、生かし、新たにしながら、先立って導いていった神の言葉の証しとなっている。

及川牧師の説教については、その聖書への沈潜と、深い洞察、旧新約聖書を縦横無尽に切り結ぶ豊かな思索に常に圧倒されながら、説教者のみ言葉への畏れと喜びを味わう幸いを与えられてきた。本書においてもそれは変わらない。原語に遡ることで、聞こえてくる福音の響きあいに耳を澄ませ、牧師自身が神の峻厳なる言葉の前に立たされて激しい格闘と葛藤を経て、ついに聴き取られた深き福音の響きへと読む者を引き込んでゆく。

られてゆく希望を指し示される。

そしてこの望みは祈りとなる。「肉体が生きている今も、その死の姿をもつても、私たちの主、受難と栄光のキリスト、再臨の人の子によって世の終わりに完成する『神の国』の完成を証しする者でありたいのです」（「見たら悟りなさい」より）と。「あとがき」にもふれられているが、「主イエスがこの地上にあらわれたことに『神の国』が始まり、十字架の死と復活の命を一つの頂とし、昇天と聖霊降臨、教会の誕生、終末に人の子イエスが再臨することによって」完成する『神の国』の国の福音を教会は、そして教会に連なる私たちは、与えられた日々を閉じる終わりの日に向かって、大いに語るものとされていることに改めて内に心燃える思いを与えられる。

最後に、及川牧師とご家族ののたうつような苦闘のただ中であって紡ぎ出され、この書に収められている「神の国」の福音の言葉によって、天にある大きな喜びがもたらされたことによ

全編を貫いて、赤裸々に破れ、打ち砕かれながら聞き、語る

牧師と教会の姿が迫ってくる。いつしか勘違いをして、生ける大いなる神ではなく、自らの内に小さく凝り固まった信仰という名の「神」に依り頼んでいる、ありのままの、的外れな姿を、徹底的に根本的に打ち砕く言葉が、聖書から響き出すのを聞くとき、「神さま、罪人のわたしを憐れんでください」と「胸を打ちながら言う」ほかないことに打ちのめされる。たとえ誰が見ていなくても、「神は見ていたのです。そしてその祈りを聞き届け、この徴税人を『義』とされたのです。つまり神の国に招き入れたのです。新しい命を与え、その国に招き入れたのです。そのうえで帰した。でも彼はそのことを知らない。そういうものです」。主の再臨の時に主イエスご自身が捜し求め、見出し、呼び寄せてくださるのが、この徴税人の悔いなくすおれし魂である、と語られる（「神の国に入るのは誰か」より）。礼拝のたびに、キリストの死に打たれてこれまでの自分を失いつくし、キリストの復活の命に立てられながら新しく受けながら、終わりの日に向けて一步一步、このキリストの姿へと造りかえ

りたい。「神の国」に深く憧れ、高く仰ぎ見ながら、一進一退する回復への足取り、特に言語や嚙下に困難を抱えていた及川牧師の激しい格闘と葛藤を目の当たりにしていた一人のリハビリ担当者がいた。リハビリ病院から教会の講壇へと付添い、傍らで復帰後の「神の国」説教を聞きながら、その牧師の姿とみ言葉に圧倒され、遠ざかって足踏み入れること久しかった教会の信仰を二十年ぶりに回復したその方は、（及川牧師には最後まで自らの信仰を明かすことなかったと言うが）魂のさすらいの末に、福音に立ち帰って、今は教会にあって伝道委員として「神の国」を遙かに望み見ながら、毎週の礼拝を欠かすことなく、一步一步、終わりの日の完成に向かって内なる人、日々新たにされている。本書には、天にある喜びを響かせる福音が刻まれている。

（四六判・三〇〇頁・本体二四〇〇円＋税・一麦出版社）
（さん・とむ）日本基督教団美作教会牧師



神の国

説教

及川信
Shin Oikawa



「神の国」の重要な柱は
十字架と復活。

ルカによる福音書の「神の国」という語のある箇所のみをセレクト。「神の国に生きよ」と招く神の言葉を力強く語る。

四六判・並製
定価【本体 2,400 + 税】円
ISBN978-4-86325-105-2



株式会社 一麦出版社
札幌市南区北ノ沢 3 丁目 4-10
TEL (011) 578-5888
<http://www.ichibaku.co.jp>
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

辻 哲子著

「日本アライアンス教団千葉キリスト教会発行」

み言葉に生かされ

高齢化に伴う現実的な牧会上の課題が聖書を土台として

山中正雄師

「日本アライアンス教団千葉キリスト教会牧師、精神科医」

教会形成の根幹にかかわる聖書論、説教録だけでなく、高齢化に伴う現実的な牧会上の課題が聖書を土台として正面から論じられています。読者は幅広いテーマについて深く考えさせられ、多くのことを学びとることでしよう。(はじめに)より

●四六判・二七六頁・本体一、二〇〇円



川上直哉著

歳時記で綴るメッセージ

被災後の日常から

キリスト教を「歳時記」の形式で

「現場の神学」からやさしく語り掛ける

「クリスマスチャンではない人」に伝わることを目指して行われた「現場の神学」の実践を伴って語られたもので、「被災後の日常」に向き合い開かれていくメッセージで原「力」災害を見据えて、対話を呼びかけた。「あとがき」に添えて、対話を呼びかけた。仙台YMCAと尚綱学院中学高等学校の朝のチャペルで語られたものが本書のベースになっています。

●四六判・二〇八頁・本体一、〇〇〇円



好評既刊書・新刊・近刊のご案内

西谷幸介著 「青山学院大学大学院教授」

教育的伝道

日本のキリスト教学校の使命

●A5判・三七六頁・本体三、六〇〇円＋税

小林高德／挽地茂男／山本敏彦／川田 殖

不安な時代にキリストに従う喜び

「聖書を読む会」の記録(1) ●A5判・九六頁・本体六〇〇円

レイン&トリップ共著 田口美保子訳

人はどのようにして変わるのか

で注文殺到! ●A5変型判・四〇八頁・本体一、〇〇〇円

黒木安信 「ウエスレアン・ホーリネス教団浅草橋教会発行」

変わらない主の真実に支えられて

——巻頭言抄 ●四六判・二七二頁・本体一、五〇〇円

藤原孝行 「日本福音キリスト教会連合西甲府キリスト教会牧師」

聖書歳時記

——見たまま、感じたままの短歌・俳句・川柳 ●四六判・二二八頁・本体一、〇〇〇円

E・スヒレベークス著 時任美万子訳

ザ・ユーカリスト——トリエント公会議以降の新たな出発 待望の翻訳! ●新書判・一九二頁・本体一、〇〇〇円

藤本 満 「アムナエル総合伝道団高津キリスト教会牧師」

乱気流を飛ばす

——旧約聖書タニエル書から ●新書判・一一二頁・本体九〇〇円

一麦出版社

http://www.ichibaku.co.jp/ Ichibaku Shuppansha Publishing Co., Ltd.
携帯サイト mobile.ichibaku.co.jp/



及川信 神の国 説教

四六判 定価(本体2,400+税)円 ISBN978-4-86325-105-2

「神の国」の重要な柱は十字架と復活。「神の国に生きよ」と招く神の言葉を力強く語る。



牧野信成 旧約のアドヴェント 講解説教 土師記・ルツ記

四六判 定価(本体2,800+税)円 ISBN978-4-86325-104-5

豊かな文学性とエンターテインメント性を 汲み上げ、興味深く説き明かします。



ヴァルフェルト・デ・グレーフ 菊地信光 訳 ジャン・カルヴァン その働きと著作

A5判 定価(本体6,800+税)円 ISBN978-4-86235-103-8

豊富な情報をもごとに整理し、16世紀の文脈でカルヴァンの姿を浮かびあがらせた。



オリヴィエ・ミエ 菊地信光 訳 改革派教会

A5判 定価(本体2,000+税)円 ISBN978-4-86235-107-6

改革派の思想の誕生から教派として確立されていく過程を、信仰告白・教会規則をもとに紐解く。

阪田寛夫 バルトと蕎麦の花

四六判 定価(本体1,800+税)円 ISBN978-4-86235-098-7

ふしぎな「元気の素」を探し求めて雪深い山中にある教会のクリスマス礼拝に出かける……。人間関係に挫折し、悩みながらも、神に近づく歌人牧師。

高橋たか子 夜の客 遠いあなたへ 不思議な縁

四六判 定価(本体3,200+税)円 ISBN978-4-86325-100-7

高橋たか子の小説世界を堪能できる三作品。NHK ラジオドラマCD「誘惑者」付。主人公を岸田今日子が演じ、その独特な語り口で聴く者を魅了する。

ドナルド・K. マッキム 原田浩司 訳 宗教改革の問い、 宗教改革の答え

95の重要な鍵となる出来事・人物・論点 A5判 定価(本体2,000+税)円 ISBN978-4-86235-106-9

プロテスタントの改革の疑問を簡潔・明快に解き明かす。「宗教改革」を理解するための最良の入門書。



絶賛発売中

* 自費出版の専門出版社 * 株式会社ヨベル YOBEL Inc.

資料請求・見積依頼・制作のご依頼等は info@yobel.co.jp または下記へ [税別表示]

〒113-0033 東京都文京区本郷 4-1-1 TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858 呈 / 「本を出版したい方へ」

書店名	郵便番号	住所	電話	ファックス	URL	メール	郵便振替
北海道キリスト教書店	060-0807	札幌市北区北七条西6丁目	011-737-1721	011-747-5979	http://www.jp-shop.com	sasaki@jp-shop.com	02770-2-56520
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用		zeninikan_syoten@yahoo.co.jp	02350-0-874
仙台キリスト教書店	980-0012	仙台市青葉区1-36 敷島センター・177F	022-223-2736	共用		fqcwk524@ybb.ne.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	〒新中延町2-2 榎ヶ丘キリストセンター	043-238-1224	043-247-3072	http://www.keisen.christian.jp	keisen@vesta.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	http://www.kyobunkwan.co.jp	xbooks@kyobunkwan.co.jp	00120-2-11357
聖公書店	350-1331	埼玉県狭山市新狭山1-5-1	042-900-2771	042-900-2722		seikoshoten@bible.or.jp	00160-2-18410
アバコ・ブックセンター	169-0051	東京都新宿区西早稲田2-3-18	03-3203-4121	03-3203-4186	http://www.avaco.info	avaco@avaco.info	00130-0-96398
待農堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	共用	http://taisindo-books.jimbo.com/	taisindo@icom.home.ne.jp	00110-8-95827
バイブルハウス南青山	107-0062	東京都港区南青山5-10-2	03-6418-9230	03-6418-5231	http://biblehouse.jp	biblehouse@bible.or.jp	00160-2-18410
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881	http://www7.biglobe.ne.jp/~yohatara.cbs/index.html	sksch@mva.biglobe.ne.jp	00250-4-2512
清光書店	951-8114	新潟市営所通一番町313	025-229-0656	共用			00560-8-51419
静岡聖文舎	420-0866	静岡市葵区西草深町20-26	054-260-6644	054-260-5612	http://www.s-seibun.co.jp/	info@s-seibun.co.jp	00810-8-26558
名古屋聖文舎	464-0850	名古屋市千種区今池5-28-4	052-741-2416	052-733-2648	http://nagoya-seibunshala.coccan.jp/	nagoya-seibunshra@nifty.com	00810-5-14073
京都ヨルダン社	602-0854	京都市上京区荒神口通河原町東入ル	075-211-6675	075-211-2834	http://web.kyoto-net.or.jp/people/kjordan/	kjordan@mbox.kyoto-net.or.jp	01010-2-594
大阪キリスト教書店	530-0002	大阪市北区曾根崎新地2-1-15	06-6345-2928	06-6345-2187	http://osakacbs.web.fc2.com/	ochrbook@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
バイブルハウスびびるすの森	591-8041	堺市北区東雲東町1-1-16	072-257-0909	072-253-6132		sakai-jbs@bible.or.jp	00160-2-18410
神戸キリスト教書店	650-0021	神戸市中央区三宮町3-9-18三陽ビル2F	078-331-7569	共用		kobe-kirisyo@mse.biglobe.ne.jp	01150-7-45120
広島聖文舎	730-0841	広島市中区舟入町12-7	082-208-0022	082-208-0177		hseibun0951@yahoo.co.jp	01360-4-1958
徳島キリスト教書店	770-0052	徳島市中島田町3-57-1	088-633-6335	共用	http://www6.ocn.ne.jp/~tcs/	tokushoten@shirt.ocn.ne.jp	01630-5-37119
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一万町1-23	089-921-5519	089-921-5413	http://www.geocities.jp/masujama_1007/index.html	sksch@dokidoki.ne.jp	01650-1-2120
北九州キリスト教ブックセンター	802-0022	北九州小倉北区上雷野5-2-18	093-967-0321	共用		kbookcenter@bible.or.jp	01780-4-39965
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7-7	092-712-6123	092-781-5484	http://www.sinseikan.jp/	info@sinseikan.jp	01750-5-10932
キリスト教書店ハレルヤ	862-0971	熊本市大江4-20-23	096-372-3503	共用		k-haleruya@bible.or.jp	00160-2-18410
沖縄キリスト教書店	903-0207	中環読道字跡777 沖縄キリスト教館内	098-943-7221	共用	http://www.okinawacbs.com/	okinawacbs@yahoo.co.jp	020308-1283

※一般書店関係の方は 日キ販営業部 TEL 03-3260-5670 にご連絡ください。

■新教出版社
南島キリスト教史入門
——奄美・沖縄・宮古・八重山の近代と福音主義信仰の交流と越境
一色 哲著

琉球王国の最大版図とほぼ重なる「南島」にはなぜ多くの教会が建てられ、現在でも多くの人の信仰を集めているのか。その歴史を交流史的な視点と丹念な調査から追究した労作。
四六変判・予価2300円

クエーカー入門
ピンク・ダンデライオン著／中野泰治訳

社会的な証しや沈黙の礼拝などで知られるクエーカー運動は、いつどのように生まれ、これからどこに向かうのか。明瞭な社会学の記述で、その歴史・運動・思想を明らかにする。
四六判・予価2200円

■教文館

「増補改訂」キリスト者の世界観
——創造の回復

A・M・ウォルターズ著／宮崎彌男訳
政治・科学・経済・教育・性など価値観が多様化するものごとを、キリスト者はどのように考え、生きればよいのか？
四六判・192頁、本体1800円

パウロの弁護人

G・タイセン著／大貫隆訳

INFORMATION 近刊情報

青年法律家は獄中の使徒を救えるのか？ キリスト教最大の伝道者の実像を史料に基づいて再構成し、その卓越した神学と生涯を描き出した、新約聖書学の碩学による渾身の思想小説。
四六判、486頁、本体三八〇〇円

■日本キリスト教団出版局

NTJ新約聖書注解
ルカ福音書 1章～9章50節

嶺重 淑著

日本語で考える聖書学者が日本語で書き下ろすルカ福音書注解、三分冊の第一巻。イエスの誕生から、ガリラヤにおける活動までを描く。原文に忠実な翻訳を掲載して、聖書の本文を丁寧に読み解く。さらに、現代日本に生きる者たちにその箇所が何を語っているかをも思いめぐらす。

A5判・上製・490頁・本体5200円《4月刊》
《シリーズ刊行開始記念》特価(本体)4400円*2018年9月30日まで

井上洋治著作選集10第2期全5巻《最終回配本》
日本人のためのキリスト教入門
井上洋治著作一覽

山根道公編・解題／若松英輔解説

慶應義塾大学における講義を『日本人のためのキリスト教入門』として初の単行本化。日本人に響く言葉でキリスト教をわかりやすく解説する。さらには、「井上洋治著作一覽」、高橋たか子氏のエッセイ、佐藤優氏の書き下ろしエッセイも併せて収録。充実した一冊。

A5判・上製・248頁・本体2500円

福音と世界

2018年5月号

特集 マルクス主義とキリスト教
寄稿者 〓 柄谷哲人、武田武長、不破哲三
小田原琳、四戸潤弥、デウツド・ライアン

オオカミ復活と農村伝道（星野正興）／好評連載 野に咲く民衆の神学（森宜雄）、福音の地下水脈（植本一子）、聖書とわたし（福岡伸一）、地のいと低きところにホサナ（フレイディムカ）、みことば散歩（望月麻生）、現代神学の冒険（芦名定道）、第一テモテ書（辻学）ほか

A5判・本体588円・〒70円
定期購読についてはお気軽にご相談下さい。

新教出版社 TEL: 03-3260-6148
Email: sales@shinkyō-pb.com

編集室から

最近、平野啓一郎『マチネの終わりに』（毎日新聞出版、二〇一六年）を読んでいます。主人公は天才ギタリストの蒔野と通信社記者で戦地へ赴任した洋子。「三回会っただけ」の二人の出会いと別れを描いた物語です。恋愛だけでなく、親子関係、中東情勢、芸術、文化、ジャーナリズム、中年の危機など、個人的なものから社会的なもの、硬軟さまざまな問題が織り込まれています。質の異なるテーマが絶え間なく現れてくるので、年代や立場によって違った味わい方ができそうです。

作中でギタリストの蒔野が音楽のフーガ形式について、「音楽は未来に向かって一直線に前進するだけじゃなくて、絶えずこんなふうには、過去に向かっても広がっていく」と言う場面があります。メロディーが変化をつけて展開されていき、昇華されて曲が締めくくられるということが言われています。最終章

まで見（聴き）届けると、もはや、初めに登場した主題は同じようには聴こえません。この小説では、「現在と未来が過去を変えていく」ということが繰り返し登場します。

この文章を読み、再読の楽しさを思いました。作品の最後まで辿りつき、もう一度読んでみると、まったく違う景色が見えてくることがあります。小説を読む醍醐味は、そうやって自らの現実から一旦離れて、他者をイメージし、何度でも普遍的なつながりを見出すことではないかと思えます。

スマホやパソコンですぐに調べる。何でもスピードディーに対応、すぐに知りたいし、「役立つ」知識を得たい。どうしたことなのか「まとめ」で読む。「いいね！」したい、さりたい。……急いで点を検索するばかりで、情報と承認欲求があふれる社会に息苦しさを感じることがありますが、その疲労をひとと癒してくれる一冊でした。（福水）

本のひろば 2018年6月号 予告

本・批評と紹介・村田充八、山口陽一他著『地の塩となる教会をめざして』、R・ボレン著『祈る』、本多峰子著『イエスの神義論』、N・T・ライト著『悪と神の正義』、山田耕太著『Q文書』他

イエスのたとえ話の再発見

J・エレミアス 著 / 南條俊二 訳

名著復活

名著『イエスの譬え』（独語版65年、善野訳69年）を英語圏の読者のために更に読みやすく改訂した英語版（66年）を邦訳。1世紀パレスチナの生活・言語・宗教に可能な限りさかのぼり、たとえ話本来の意図を解明した古典的研究。

◆四六判・本体3000円

聖書の風景

小磯良平の聖書挿絵

岩井健作 著（いわい・けんさく氏は日本基督教団隠退教師）

日本を代表する洋画家・小磯良平が描き下ろした32点の挿絵を一点ずつ取り上げ、画家が聖書から何を読み取り、いかに表現したかを解説。

◆A5判変型判・本体2500円

新約聖書と神の民 下巻

N・T・ライト 著 / 山口希生 訳

主著邦訳、待望の完結！

上巻で詳細な方法論的基礎づけを終えた後、本下巻ではいよいよ原始教会の信仰理解を詳述。教会の生成と新約聖書の成立の様相が明らかとなる。

◆A5判・本体3700円

教会と国家Ⅲ

バルト・セレクトシヨン6

東西冷戦の時代

カール・バルト 著 / 天野有編訳

戦後の再建期から激しい冷戦期に向かう困難な時代に公にされた「キリスト者共同体と市民共同体」「国家秩序の転換のうちにある教会」など、

◆文庫判・本体1800円

バルト自伝

佐藤敏夫 編訳

没後50年を機に読みやすく改版・復刊！

◆新教新書277
本体1200円

トム・ハーパー 作 / 中村吉基 訳 / 望月麻生 絵

『いのちの水』原画展開催！

5月9日～27日、教文館3階ギャラリー・ステラにて

- 望月麻生牧師による消しゴム版画ワークショップ（材料費実費 1500円）
5/11&12（金/土）14:30～15:30 楽しい小物づくりに挑戦しよう！
- 渡邊さゆり牧師と訳者と画家のトークイベント
5/11（金）18:30～19:30 この寓話の意味を考える。
- 友野富美子牧師による朗読ワークショップ
5/18（金）18:30～19:30 メッセージを肉声で伝えてみよう！



要申込
教文館キリスト教書部
Tel: 03-3561-8448
Tel: 03-3563-1288

日本キリスト教団出版局 〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18 TEL03-3204-0422 FAX03-3204-0457
e-mail eigyou@bp.uccj.or.jp ホームページ http://bp-uccj.jp (価格8%税込)

日本語で書き下ろす聖書注解シリーズ、好評刊行中！

執筆者による原文に忠実な日本語訳を収め、どの聖書を使う方でも長く使用できる！



NTJ 新約聖書注解
ルカ福音書 1章～9章50節

嶺重 淑

2018年4月25日刊行予定

日本語で書き下ろすルカ福音書注解、3分冊の第1巻。イエスの誕生からガリラヤにおける活動までを描く。最新の学問成果を踏まえて聖書の本文を丁寧に読み解きつつ、テキストの現代的意味を考察する。

シリーズ刊行開始記念

特価4,752円

2018年9月30日まで

◆A5判 上製・490頁・通常価格5,616円

井上洋治著作選集

全10巻完結！

10 日本人のためのキリスト教入門
井上洋治著作一覧

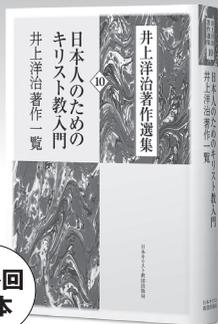
山根道公 編・解題
若松英輔 解説

慶應義塾大学における講義を『日本人のためのキリスト教入門』として初の単行本化。「井上洋治著作一覧」、高橋たか子の再録エッセイ、佐藤優の書き下ろしエッセイも併せて収録。

2018年4月20日刊行予定

◆A5判 上製・248頁・2,700円

最終回
配本



シリーズ完結記念イベントのご案内

『井上洋治著作選集』完結記念講演と祝会

日時 2018年5月19日(土)

13時～16時

会場 幼きイエス会・ニコラ・バレ 9階ホール

JR四ツ谷駅 麹町口より徒歩1分

参加費 無料 (事前申し込み不要)

■主催/風の家 ■協賛/日本キリスト教団出版局

◎13時～14時30分 講演

講演 I

『日本カトリシズム』の開拓者
—日本の霊性と近代日本のカトリシズムとの邂逅
小野寺功(清泉女子大学名誉教授)

講演 II

『井上洋治著作選集』の現代的意義
—フランシスコ教皇の言葉との共鳴
山根道公(ノートルダム清心女子大学教授)

◎14時30分～16時 祝会

定価七八円(税抜七四円)千62円
一年分三〇〇円(送料共)

発行所 〒162-0814 東京都新宿区新小川町九-1 一般財団法人キリスト教文書センター
電話〇三三六〇一六五〇 振替〇〇七〇一五二七九
発行人 本村利春 編集人 土肥研一 印刷所 (株)平河工業社
発売所 日本キリスト教書販株式会社 電話〇三三六〇一五六七〇